

ふくおかの経済

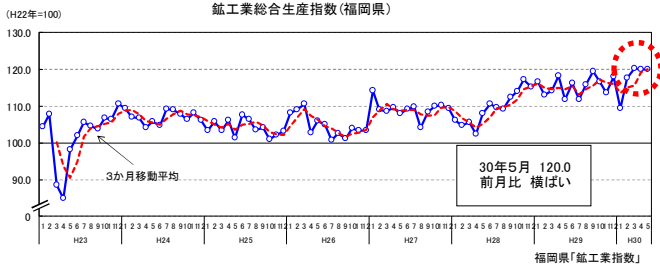
平成30年7月号



生産

高水準で推移

5月の生産指数は、はん用・生産用機械工業などが上昇したが、輸送機械工業などが低下したため、前月比横ばいとなり、引き続き高水準で推移しています。

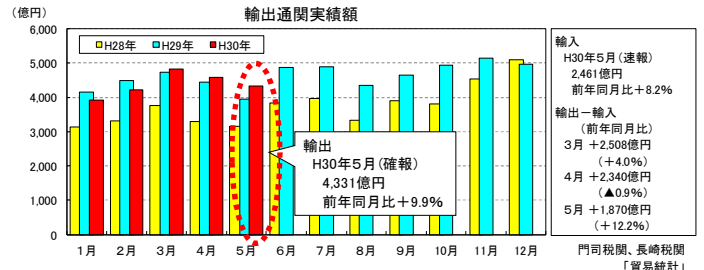


鉱工業生産指数は、平成22年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出は高水準で推移、輸入は回復している

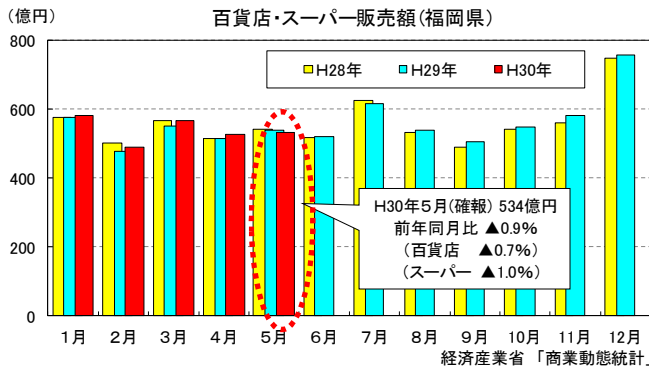
5月の輸出は、中東向け自動車や中南米向け船舶類などの増加により3か月連続で前年を上回り、引き続き高水準で推移しています。



消費

緩やかに増加している

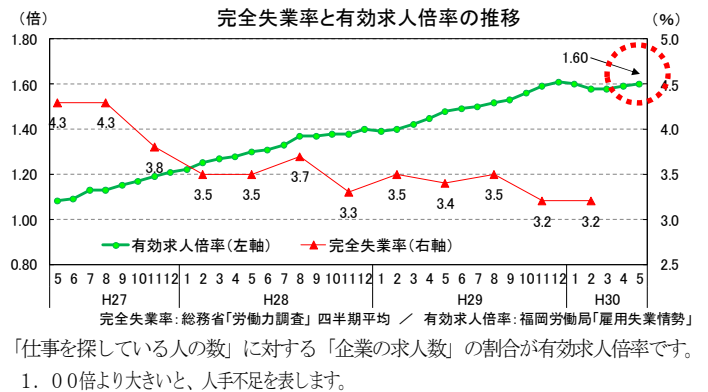
5月の百貨店・スーパー販売額は、土日祝日の日数が前年より1日少なかったことなどにより衣料品・食料品などの動きがにぶく、10か月ぶりに前年を下回りました。



雇用

着実に改善が進んでいる

5月の有効求人倍率は1.60倍で、2か月連続で前月を上回り、過去最高の水準で推移しています。



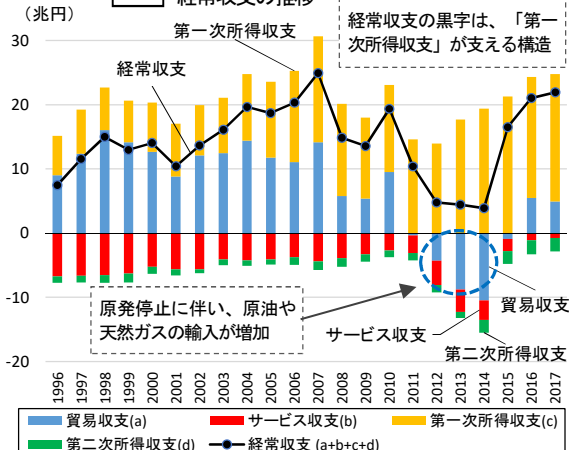
今月のトピック 日本の新たな「稼ぐ力」 ～モノから投資、サービスで稼ぐ時代へ～

○米中の貿易摩擦が騒がれていますが、「貿易立国」と呼ばれていた日本の状況はどのようになっているのでしょうか。

○日本と海外とのモノやサービス、投資の取引状況を表す「経常収支」をみると、日本経済の「稼ぎ」の現状が分かります。稼ぐ力を示す経常黒字は、貿易収支から一次所得収支へ移っており、輸出から投資で稼ぐ構造へと変化しています(図1)。

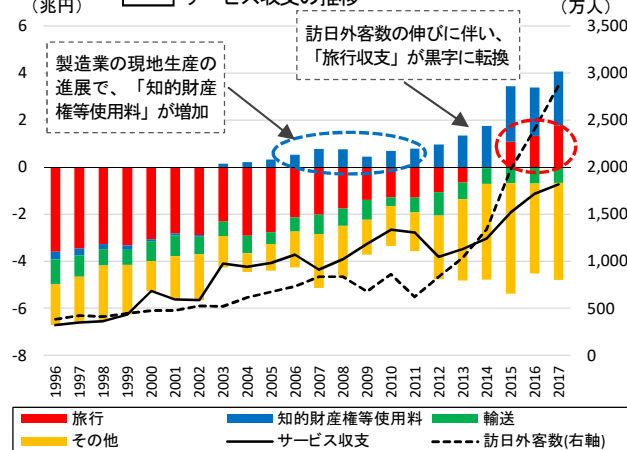
○かつては大きく赤字だったサービス収支に着目すると、赤字幅が小さくなっています(図2)。サービス収支の改善は、製造業の現地生産の進展と訪日外国人の増加などが要因となっています。日本の人口減少が続く中で、海外進出が遅れているサービス業にとっては、増加する外国人観光客の消費をいかに取り込むかが重要となりそうです。

図1 経常収支の推移



データ出所) 財務省「国際収支統計」

図2 サービス収支の推移



データ出所) 財務省「国際収支統計」、JNTO「訪日外客統計」 (トピック担当: 深町)